

別紙6 宇治の歴史の変遷に関する資料

| 番号 | 時代 | 事件・物件 | ポイント | 概要 | 展示文化財案 | 遺跡・文化財 | 備考 |
|----|----|---------------|----------------|---|--|--|---|
| 1 | 原始 | 宇治川と巨椋池のほとり | 宇治の地形 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治川とともに宇治の地理的特性を決定づけた湖沼巨椋池。昭和16年干拓。 ・この畔で宇治の人々は生きてきた | <ul style="list-style-type: none"> ・○精巧な石槍 ・△平等院縄文土器、弥生土器 ・○固有水生植物(食虫藻、蓮など) ・○オオサンショウウオ ・○近世の内水漁業民具、古写真 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治川 ・巨椋池干拓地 ・万葉歌碑 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治の地理的特徴は、山と川と湖沼が織りなす地形変化の妙と豊富な水。この豊かさと景勝性ある地域的まとまりが、古来より個性を持ったウジとして万葉人にも歌われた。 ・宇治川上流の竜宮伝説、異界との境界性など、宇治川と宇治橋には神秘性がまわりつく。 |
| 2 | 古墳 | 菟道稚郎子皇子の説話 | 始祖王伝説 | <ul style="list-style-type: none"> ・記紀、山城風土記にある著名な倭五王期の説話。伝説の皇子。 ・応神の庶子皇子で仁徳の弟ウジノワキイラツコの即位を応神は望んだがイラツコの自殺で仁徳が即位した古代王権譚。 ・宇治の地名起源説話。現宇治神社辺りが宮跡伝承地。宇治川の東山上に埋葬伝承。 ・説話背景となる古墳の存在 | <ul style="list-style-type: none"> ・○二子山古墳などの銅鏡、勾玉、甲冑、瓦塚古墳の金銀製品(府指定) ・○渡来系土器 ・×『古事記』写本 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治二子山古墳、五ヶ庄二子塚古墳、瓦塚古墳 ・宮内庁菟道稚郎子皇子墓 ・朝日山頂菟道稚郎子墓 ・宇治上神社 ・宇治神社 ・宇治川 | <ul style="list-style-type: none"> ・菟道稚郎子は聖なる天皇仁徳を生み出すための想像上の皇子というのが歴史学的定説。宇治、宇治上社祭神で離宮祭神輿が町を巡行。 ・イラツコが摂津から宇治に来るときに道に迷いウサギに助けられた伝説から、宇治の神の使いはウサギ。ウジの古地名菟道はこの伝説による。 ・宇治川東山上にある二子山古墳からは多量の武器が出土し宇治の渡しを支配した武人。二子塚古墳は古墳後期では府下最大規模、また瓦塚古墳や市街地からは渡来人遺物が出土するなど、ウジノワキイラツコの背景となった豊かな古墳文化があり古代ロマンあふれる。 |
| 3 | 飛鳥 | 道登と宇治橋架橋 | ランドマーク | <ul style="list-style-type: none"> ・大化2(646)年に架橋。年代判明の最古橋 ・当初は現在地の上流に架橋説 ・古代三橋の一つ ・付近に古代寺院やわが国最古の瓦窯が造られ、交通の要衝として発達開始。 | <ul style="list-style-type: none"> ・×宇治橋断碑 ・○宇治橋親柱擬宝珠 ・×『石山寺縁起絵巻』に描かれた宇治橋 ・○隼上り窯跡出土飛鳥時代瓦 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治橋 ・橋寺宇治橋断碑 ・史跡隼上り瓦窯跡 ・橋姫神社 | <ul style="list-style-type: none"> ・最初の橋は上流の塔の島あたり。平等院創建により現在位置へ移転。 ・宇治のランドマークは宇治橋と宇治川。後の絵巻にも登場。柳、橋、水車が後の宇治のキーワード。 ・橋姫伝説、鬼の出没など魔性の存在 ・古代宇治の中心は川東の菟道地区。ここには古墳や古代寺院が集まる。 |
| 4 | 平安 | 藤原道長と宇治 | 平安王朝文化 | <ul style="list-style-type: none"> ・長徳4(998)年10月ころに道長が宇治別業を取得。この後、たびたび宇治別業で詩歌会、舟遊、紅葉見物をする。後の平等院となる場所。 ・寛弘2(1009)年10月19日一門の菩提寺浄妙寺が木幡に完成。場所は安倍清明が占う。彰子参拝。おそらく紫式部も ・道長は浄妙寺の東側丘陵にある一門の墓域に葬られる。藤原頼通や彰子なども。宇治陵墓。 | <ul style="list-style-type: none"> ・×浄妙寺出土青磁水指 ・×『紫式部日記絵詞』に描かれた道長像 ・×『御堂関白記』⇒世界記憶遺産 ・×吉野出土道長納経筒 ・×源氏物語手鑑帳 | <ul style="list-style-type: none"> ・平等院 ・宇治川景観 ・木幡浄妙寺跡 ・宮内庁宇治陵墓 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治は平安京遷都とともに皇族貴族の別荘地に。 ・道長の政権獲得とともに宇治に別荘を取得し、木幡に一門の菩提寺創建。 ・藤原氏の拠点としての宇治 ・鶴飼、紅葉がり、船あそび、など今に続く観光資源のはじまり |
| 5 | 平安 | 藤原頼通と平等院創建 | 平安王朝文化と世界遺産 | <ul style="list-style-type: none"> ・永承7(1052)年3月28日宇治別業を平等院に改める ・翌年鳳凰堂完成、極楽浄土のバーチャルリアリティ ・この後堂建立続き巨大な伽藍完成。 ・藤原氏の宝物庫一切経蔵。 ・鳥羽離宮や奥州平泉に鳳凰堂を模した建物が建つ ・この世のシンボルとしての離宮社(宇治社、宇治上社) | <ul style="list-style-type: none"> ・△平等院出土瓦・土器 | <ul style="list-style-type: none"> ・平等院 ・旧境内多宝塔跡 ・平等院表参道 ・宇治橋 ・宇治上神社 ・宇治神社 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治川を挟んで極楽浄土のバーチャルである平等院、この世のシンボルの宇治社を配し、浄土経が説くこの世からあの世への世界観を表現している ・平等院経蔵には『源氏物語』幻の巻「くもがくれ」や酒吞童子の鬼首などが収められたという伝説、また死して龍となり宇治川に棲んだ頼通が毎夜経蔵を守ったという伝説が生まれる。 |
| 6 | 平安 | 宇治大納言ものがたり成立地 | 説話古典文学のバースプレイス | <ul style="list-style-type: none"> ・大納言源隆国が平等院南泉坊で『今昔物語』などの基になった『宇治大納言物語』を著す。 ・古典文学の故地 | <ul style="list-style-type: none"> ・○南泉坊跡出土独楽、下駄、土器など源隆国関係遺物 ・△『今昔物語』『宇治拾遺物語』写本 | <ul style="list-style-type: none"> ・平等院 ・南泉坊跡 | |
| 7 | 平安 | 藤原氏の都市計画 | 平安の町 | <ul style="list-style-type: none"> ・平等院造営により宇治に藤原氏の邸宅や仏堂が多数建てられ都市として発達し、藤原氏の都として繁栄。 ・この時の碁盤目道路が現在に伝わる。 ・南の白川地区に頼通の娘で後冷泉天皇の皇后が康和2(1101)年に金色院を建立。平泉金色堂の基になった説あり。 | <ul style="list-style-type: none"> ・○宇治地区出土中国製陶磁器、土器など平安遺物。 ・○宇治郷総絵図 ・○金色院出土中国製白磁・銅鏡 ・○金色院旧蔵品(紺紙金泥経、板彫曼荼羅等)※府指定 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治市街地の碁盤目道路 ・白川地区 ・白川金色院跡 ・白山神社 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治の都市的発展の基 ・藤原氏の春日参拝の時に華麗な行列が宇治を練り歩き都さながらの光景があった ・当時、白川田楽が著名。現在の宇治田楽のもとに。 |

| | | | | | | | |
|----|----|--------------------|-----------|---|--|---|---|
| 8 | 平安 | 源頼政と宇治橋合戦 | 源平古戦場 | <ul style="list-style-type: none"> ・治承4(1180)年5月26日に源頼政が以仁王令旨を奉じて挙兵し宇治橋と平等院で平家追討軍と戦い敗死。以仁王も現在の木津川市綺田で打ち取られた。平家打倒最初の戦い。翌日三室戸寺が平家の掃討を受けて焼失。 ・『平家物語』宇治橋合戦での筒井浄妙坊大奮戦。 | <ul style="list-style-type: none"> ・×伝源頼政所用鎧⇒平等院、形式的には後のもの ・×源頼政肖像画 ・×頼政平等院での奮戦錦絵 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治橋 ・頼政橋、頼政道 ・平等院境内の頼政切腹扇の芝、よろい掛けの松など ・平等院内源頼政墓 ・白川区上明⇒浄妙坊隠棲の地伝説 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治川の蛍見は、中世から明治まで全国的に著名な風物であった。この宇治川を舞う無数の蛍火は、宇治川で戦死した源平将兵の魂と信じられてきた。 |
| 9 | 平安 | 源義経と宇治川先陣争い | 源平古戦場 | <ul style="list-style-type: none"> ・寿永3(1184)年1月20日に源義仲追討軍の源義経軍が宇治川を挟んで合戦し、これを破る。 ・『平家物語』ではこの時、佐々木高綱と名馬イケヅキ、梶原景季と名馬スルスミの先陣争いはじめ、関東の名だたる武将の活躍が語られている。 ・義経の初陣 | <ul style="list-style-type: none"> ・×義経所用鎧か赤糸緘大鎧 ・×義経肖像画 ・△先陣争い屏風 ・×先陣争い錦絵 ・×『平家物語』写本 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治川 ・宇治橋 ・先陣争いの碑 | <ul style="list-style-type: none"> ・明治期まで、この先陣争いの古戦場は、現在の史跡宇治川大閘堤跡あたりとされてきた。 ・現在先陣争い碑は橋島に建つが、それは昭和に入ってからここが公園化されたことによる。 |
| 10 | 鎌倉 | 第二の宇治川先陣争い | 承久の変古戦場 | <ul style="list-style-type: none"> ・承久3(1221)年6月13日北条泰時の幕府軍と後鳥羽上皇軍が合戦し、佐々木信綱と芝田兼義が騎馬で川を渡り先陣争いをしたという。 ・平等院の宝蔵が壊される。 | <ul style="list-style-type: none"> ・×北条泰時肖像 ・×宇治川合戦の図 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治川 ・宇治橋 ・平等院 | |
| 11 | 鎌倉 | 明恵と宇治茶伝説 宇治茶十帖へ | 宇治茶創世記 | <ul style="list-style-type: none"> ・承元元(1207)年に栄西から茶の種を渡された明恵が梅ノ尾をはじめ各地に茶栽培を伝える ・伝説によると、宇治の里人が茶種の撒き方で困っていると明恵が「梅山の尾上の茶の木分け植えて、あとぞ生うべし駒の足影」と歌い馬の足跡に種を撒かせたという。 ・黄檗山萬福寺門前の駒蹄影園がその場所であったという。 | <ul style="list-style-type: none"> ・×明恵肖像 ・×栄西肖像 ・×『喫茶養生記』写本 ・×梅ノ尾写真や初期茶園資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・黄檗駒蹄影園 | <ul style="list-style-type: none"> ・梅ノ尾の茶を本茶といい他を非茶と言った。後に宇治茶が梅ノ尾にとって代わる。 ・梅ノ尾高山寺に最古茶園。宇治の生産者が管理。宇治茶の源流の碑 |
| 12 | 鎌倉 | 一服一銭 庶民の茶の湯 | 喫茶の広まり | 現在の茶道につながる大名の茶と一服一銭の庶民の茶のはじまり。 | <ul style="list-style-type: none"> ・×振り売りの図(職工図・日蓮聖人絵巻) ・×茶道具 ・×狂言「栗隅神明」「通円」 | | |
| 13 | 鎌倉 | 巨大石塔建つ | 日本最大の石造古塔 | <ul style="list-style-type: none"> ・弘安9(1286)年11月16日に西大寺の僧叡尊が宇治橋修造のため殺生禁断網代停止の願を記した十三重石塔を浮島に建てる。 ・日本最大の石造古塔 | <ul style="list-style-type: none"> ・×叡尊肖像 ・×塔内納入舍利、水晶製五輪塔ほか | <ul style="list-style-type: none"> ・浮島十三重塔 ・橋寺⇒塔管理の寺 ・興聖寺⇒塔の九輪存在 | <ul style="list-style-type: none"> ・明治末年に倒れていた塔を再建 ・9層目は藤森神社にある。石川五右衛門が盗んだ伝説 |
| 14 | 室町 | 楠正成と平等院炎上 | 宇治燃ゆる | <ul style="list-style-type: none"> ・建武3(1336)年1月7日に楠正成と足利方が宇治で合戦し、正成が宇治の町や平等院に火を放つ。 ・平等院は鳳凰堂と北門を残しことごとく焼けたという。宇治の町もほぼ焼け野原となったという。 | <ul style="list-style-type: none"> ・×楠正成肖像画 ・×楠正成所用鎧 ・×『太平記』写本 ・△平等院出土の火を受けた瓦や陶器 | <ul style="list-style-type: none"> ・平等院 ・宇治橋通り | <ul style="list-style-type: none"> ・この兵火により平安時代以来の町が焼け、新しい街へと胎動。宇治橋通りが造られ宇治独特の三角形街区が形成 |
| 15 | 室町 | 宇治茶の興隆 宇治茶十帖へ | 宇治茶 | 本茶「梅ノ尾」「仁和寺・醍醐・宇治・葉室・般若時・神尾寺・・・」虎関師錬『異制庭訓往来』 闘茶の流行 | <ul style="list-style-type: none"> ・×『異制庭訓往来』 | | |
| 16 | 室町 | 信長と室町幕府滅亡 | 槇島合戦 | <ul style="list-style-type: none"> ・元亀4(1573)年7月18日織田信長が槇島城に籠った将軍足利義昭を攻める。足利幕府滅亡 ・槇島城主は将軍近臣槇島昭光 ・信長は岡屋に布陣、柴田勝家、丹羽長秀、明智光秀、羽柴秀吉、荒木村重など主だった武将が参陣 | <ul style="list-style-type: none"> ・×信長肖像画 ・×信長所用鎧 ・×足利義昭肖像画 ・×槇島城絵図 | <ul style="list-style-type: none"> ・槇島城跡 ・槇島地区 | <ul style="list-style-type: none"> ・宇治東の社寺が信長軍によって焼かれたという ・この後信長が宇治橋を修築する |

| | | | | | | | |
|----|-------|---------------|-----|--|--|--|---|
| 17 | 室町 | 秀吉と太閤堤 | 太閤堤 | <ul style="list-style-type: none"> ・文禄3(1594)年10月豊臣秀吉が伏見城築城に伴う水運交通路整備のため、前田利家に宇治川の付け替えと槇島築堤を命じる。岐阜城主織田秀信(信長の孫)が小倉堤を築堤し宇治橋を撤去する。 ・これらが後に言う太閤堤。これにより現在の宇治川の流れが造られた。現在に続く土地利用交通網の原点。わが国の本格的築堤工事の嚆矢。 | <ul style="list-style-type: none"> ・×豊臣秀吉肖像画 ・×豊臣秀吉所用鎧あるいは千成ヒョウタン馬印 △伏見城金箔瓦 ・×伏見城古図 ・×前田利家肖像画 ・×織田秀信肖像画 ○太閤堤関係遺物 | <ul style="list-style-type: none"> ・史跡宇治川太閤堤跡 ・宇治川と堤防 ・宇治橋 ・小倉旧地区と小倉堤跡 | <ul style="list-style-type: none"> ・前田利家が金沢から3000人の家臣を引き連れて工事にあった。川沿いにたくさんの大釜を並べ飯を炊き工事の人たちを食べさせた。 ・利家も老臣とともに自ら片肌脱いで石を運んだ。これを秀吉が船で激励に来たなど、当時の説話が残る。 ・太閤堤自体は、宇治川に限らず淀川にも延ばされてゆき、大阪と伏見を結ぶ豊臣の幹線となっていた。 |
| 18 | 室町～江戸 | 大名とお茶 | 宇治茶 | <ul style="list-style-type: none"> 織田信長と宇治茶師森家、茶の湯御政道 千利休と宇治茶師上林家 豊臣秀吉の宇治茶保護 天正12(1584)年の朱印状 | <ul style="list-style-type: none"> ・×書状(伊達政宗・岡部長盛・板倉勝重・前田利長・菅沼定芳) ・×永井飛騨守御茶入日記 ・×朱印状宇治名所図 ・×宇治名所図 | 中宇治 | |
| 19 | 室町 | 宇治における覆下栽培の開始 | 宇治茶 | 『言経卿記』権中納言山科言経 『日本教会史』ジョアン＝ロドリゲス | <ul style="list-style-type: none"> ・×日本教会史 ・×言経卿記 | 市内の茶園 | |
| 20 | 江戸 | 徳川幕府と宇治茶 | 宇治茶 | 御茶師上林家とお茶壺道中 | <ul style="list-style-type: none"> ○お茶壺(レプリカ) ・×上林家文書 | 中宇治の宇治代官所跡 | |
| 21 | 江戸 | 煎茶と玉露の開発 | 宇治茶 | 宇治の大火と小倉のお茶 永谷宗円の宇治茶製法 | <ul style="list-style-type: none"> ○山城国宇治之里茶園之風景 明治2(1869)年 ○梅山種茶譜略 延享5年(1748) | 玉露発祥記念碑 | |
| 22 | 江戸 | 売茶翁と萬福寺 | 宇治茶 | 売茶翁による庶民の茶の広がり | <ul style="list-style-type: none"> ・×売茶翁肖像画 | 萬福寺 | |
| 23 | 明治 | 茶の輸出と茶業の近代化 | 宇治茶 | 明治にはいるとお茶は生糸につぐ輸出品として大量生産が図られ、欧米に広がる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○製茶新説 明治6(1873)年 増田充績著 暁斎画 ○大日本物産図会 宇治茶製之図ほか2点 明治10(1877)年以降 歌川広重(3代)画 ○皇国製茶図会 汽船海外出帆之図ほか 明治18(1885)年 望斎秀月画 ○明治12年共進会製茶審査報告 明治12(1879)年 ○第2回製茶共進会陳列品茶鑑品(ポスター) 明治16(1883)年 ○THE ILLUSTRATED LONDON NEWS 明治7(1875)年 | 中宇治・小倉・木幡等 | |
| 24 | 明治～昭和 | 茶商の店先 茶工場の風景 | 宇治茶 | 明治から昭和初期かけての製茶図や古写真、民具から、宇治の茶生産の技術の歴史と茶商の店先の風景を伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○坂部卯之助茶舗引札 大正期 ○久世郡茶業組合賃金定 ○昭和14年度機械製茶設備利用成績 昭和15(1894)年 ・×製茶図 京都府茶業会議所 ○古写真(久世写真帳等) ○製茶道具(茶摘籠・茶運び籠・覆取鎌・間水桶・茶樽・摘札・蒸籠・水桶・冷まし籠・茶舟・助炭の杵・撰板・茶撰箸・ガンブリ・箕・ボテ・ジョウゴ・茶壺・茶櫃・篩) | 中宇治・白川・小倉・木幡等 | |

○宇治市所蔵 △借用可能 ×撮影レプリカ製作
 展示期間:文化財の保存のため、土器・陶磁器等は通年、紙木布製品類は1ヶ月程度の連続展示を基本とする。